

本科 1 期 7 月度

解答

Z会東大進学教室

一橋大世界史



11章 近世ヨーロッパⅡ

添削課題

解答例

イギリスとフランスは、ヨーロッパでオーストリア継承戦争と七年戦争を戦うかたわら、北米大陸でジョージ王戦争とフレンチ＝インディアン戦争を戦った。この戦争の名の通り、アメリカ先住民もこの戦争には加担していた。北米イギリス領13植民地の移民もこの戦争には無関係ではなく、イギリスはフランスへの対抗のために、13植民地への経済統制は「有益な怠慢」と呼ばれるようになっていなかった。この英仏第2次百年戦争におけるイギリスの勝利によって経済統制が強化されていったことが、アメリカ合衆国の独立戦争につながった。インドでも、両国はブラッシーの戦いとカーナティック戦争を戦った。ブラッシーの戦いでは、イギリスはフランスと結ぶベンガル勢力を倒し、ムガル帝国からベンガルの徴税権を獲得してインドの植民地化を進めていった。カーナティック戦争に勝利したイギリスは、マラータ戦争、マイソール戦争を通じてインド支配を拡大していった。(399字)

解説

《18世紀のグローバルな紛争》

出題意図が明確に伝わらない。何を「論じ」ることがあるというのだろうか？ この「論じる」ポイントが見つからないとただ事実を列記していくだけに留まってしまう。はっきりいって、筆者には未だにこの「論じる」ポイントは見つからない。

「18世紀なかば」というのがアメリカ独立革命のことまで触れるのかどうか。時期が少しずれているような気もする。これは現場の判断にゆだねるしかない。この時期にはオスマン帝国とロシアの紛争もある。アメリカ独立革命まで时期的に含まれるならマラータ戦争やマイソール戦争のことも書くことができる。「論じる」といっても、上記のことを解答に入れるかどうかというくらいのことしか考えられない。

解答は多くの紛争を箇条書き的に列記するのではなく、問題文にも記されている「先住民や移民など植民地に住む人々や、ヨーロッパの外にある独立諸国が」というところに力点を置いて、なるべく1つにまとめてみようという思惑で書いてみたが、これが出題者の意に沿った解答となっているかはわからない。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

13章 オスマン帝国・ムガル帝国・清

添削課題

解答例

16世紀のインドに成立したムガル帝国では、アクバルがイスラーム教徒とヒンドゥー教徒の融和をはかりジズヤを廃止した。ヒンドゥー教徒は軍や官僚機構に組み込まれ中央集権体制が成立した。軍や官僚には徴税権付きの土地が与えられた。この仕組みをジャーギール制と呼ぶ。17世紀に中国支配を確立した清は、科挙を奨励し朱子学を官学とするなど、漢民族伝統の儒教を容認した。また、満漢併用制が採られ、漢民族も支配層に入ることができた。軍においても満州人だけでなくモンゴル人・漢人による八旗が作られ、八旗に属する旗人には旗地が与えられた。両帝国は異民族の被支配層との融和をはかり多民族国家として安定したが、ムガル帝国ではジズヤを復活させたことからヒンドゥー教徒の反乱が相次ぎ、清でも“滅満興漢”を掲げて蜂起した太平天国の乱が起こるなど、辮髪や文字の獄といった思想弾圧に対する漢民族の不満が高まったことが、帝国解体の要因となった。(400字)

解説

《ムガル帝国と清》

問題文にはどこにもムガル帝国、清とは書いていない。ただ、ここで問われている「帝国」がこの2つの王朝であることに気づかないようでは話にならない。

「土地制度」という問われ方でジャーギール制や旗地のことを思い出す以前に、まずジャーギール制や旗地についての用語を知っていたらどうか。知識面だけでなく、論述の構成面でも、思想・宗教政策に関しては、ムガル帝国ではアクバルとアウラングゼーブが真逆の政策を採っているが、これをどちらも書くのかどうか、といったこともある。清では直轄地だけではなく藩部についてどの程度書けばいいのかという疑問もわくだろう。

こうした疑問について、ヒントとなっているのは「共通した」という部分である。ここに目を向けなければ何を書いてもよいということになる。最も難しいのは「それぞれの帝国を解体に導いた要因を簡潔に記せ」というところだろう。ここはつい調子に乗って、学習が進んでいる人ほど、中国分割だとかシパーヒーの反乱だとかを書きたくなってしまうところだが、決して「王朝の衰退過程」が問われているわけではない。これらの帝国が多民族国家であったということが腑に落ちていないと、こういうところでまったくどうでもいいことを書いてしまうことになる。2006年度にも同様のテーマで出題されているだけでなく、東大などでもこのテーマは既出であり対策は可能などところである。しっかりと知識を身につけておきたい。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。



会員番号	
------	--

氏名	
----	--